

青少年の「成人」意識に関するヒアリング調査 中間報告

2022年4月、民法改正によって約140年ぶりに「成年年齢」が現行の20歳から18歳に引き下げられます。法改正に関する啓発や消費者教育の取り組みが進む一方で、青少年自身が「18歳成人」という変化をどのように捉えているのか、「成人」に向けた準備や教育にニーズを感じているのか、など当事者の意識やニーズについては十分に把握できていません。今後、「18歳成人」という社会的変化に応じた青少年育成施策の方向性を検討する基礎資料とするため、事前調査として青少年の「成人」意識に関するヒアリングを実施しました。

今回は調査概要と中間報告をまとめました。報告書は2021年度に発行予定です。

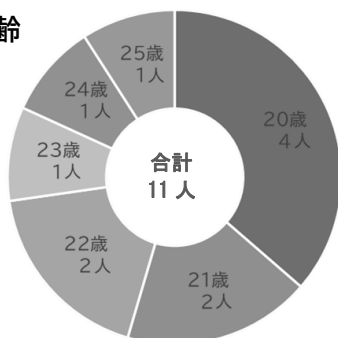
調査概要：

横浜市内在住・在学・在勤および横浜市内で活動している20歳～25歳の青少年を対象に、「成人」に対する考え方や「18歳成人」という社会状況をどのように捉えているか、支援のニーズを感じているかなど、青少年の「成人」意識とニーズ把握を目的としたヒアリング調査を実施しました。本調査の結果分析をもとに2021年度にアンケート調査を実施予定です。

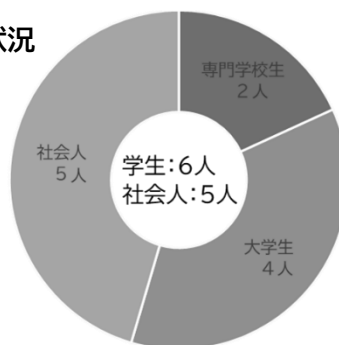
(1) 調査対象：

横浜市内在住・在学・在勤および横浜市内で活動している20歳～25歳の青少年 11人
※横浜市では主に25歳までを青少年としています。

●年齢



●生活状況



(2) 調査方法：

事前準備した質問項目によるヒアリング調査（1人60分～90分程度）

(3) 調査項目：

- ①基本属性（年齢・生活状況）
- ②成人についての意識
 - ・あなたが普段の生活で、「成人」であることを意識する場面があれば、教えてください。
 - ・あなたにとって、自分自身が「成人」になったと実感したエピソードがあれば、教えてください。
- ③「成人」による変化
 - ・「成人」する前と後で、あなた自身にはどのような変化がありましたか？
 - ・「成人」に対して持っていたイメージと現実には、ギャップはありましたか？
- ④「成人」のメリット・デメリット
 - ・あなたが「未成年の方が良かった」と感じていることがあれば、教えてください。
 - ・あなたが「成人して良かった」と感じていることがあれば、教えてください。
- ⑤支援ニーズの把握
 - ・あなたが「成人」して困ったこと、現在困っていることがあれば、教えてください。
 - ・これから「成人」する人に、どのようなサポートが必要だと思いますか？
- ⑥「18歳成人社会」への問題意識
 - ・成人年齢が「18歳」へ引き下げられることについて、あなたはどのように感じていますか？
- ⑦「18歳成人社会」への期待
 - ・「18歳成人」社会を迎えるにあたり、社会に期待することはありますか？
- ⑧意見・要望

「成人」を意識したとき

- 普段の生活というより、年金の案内とか保険とか、そういうときに「あ、わたし 20 歳か」と思う。
- 一人暮らしをはじめたときにすごく「成人」を意識した。自立したい時期なのに、「まだ親の同意が必要なんだ…」という面倒くささを感じた。
- 何をするにも自分の責任になって、成人したことを実感した。いままでは親や周囲の人が助けてくれたけど、成人してからはもう全部自分の責任になる。
- 友達と合法的に飲みに行ける。
- 携帯やWi-Fiの契約に親の承諾が要らない。
- 年金の手続きや契約の時に自分の名前が効力持っていることを感じて「うわ、成人だ！」って思う。
- 自由になった代わりに責任もすごく増大した。

「成人」して良かったこと

- いろいろな経験ができて、いろいろな方向から考えることができるようになった。
- お酒が飲めるようになったのは大きい。お酒を通して人との接点や世界が広がった。
- 行動の制限がなくなった。
- 自分の署名や印でなんでもできるようになって、行動範囲が広がった。便利で良い。
- 「成人」というだけで一定の信頼を得られる。
- 成人して良い意味で責任が持てるというか、社会から責任を持たせてもらえるようになった。
- 実家暮らしの学生で自分の中であまり変化はない。
- 周りの意識が変わった。子どもではなく個人として見てくれるようになった。
- 決定権が増えた。自己責任だけど自分で考えて選べるようになった。

「18 歳成人社会」についてどう思うか

- 政治や社会に関心をもつ若者も意外と多い。多くの意見が反映されるのであれば良いことだと思う。
- 実体験として現実に即した民法改正だと思う。これまで 18 歳で半経済的自立、20 歳で精神的自立だったのが 18 歳に揃う。「成人」の意味がこれまで以上に大きくなりそう。
- 自分自身は高校卒業してすぐに責任をとらなきゃいけないなんて考えられない。高校卒業から 20 歳までの 2 年間は成人に向けた準備期間になっていた。高校までに身につかないこともある。卒業と同時に投げ出された感じで、不安でやっていけない人が出てきそう。
- いろいろ活性化するという意味では良いと思うが、子ども側も社会の側も準備ができてない。教育や支援の基盤ができていない状況で、まだ早くない？と思う。
- 18 歳で養護施設を出るとき賃貸契約で保護者の同意が必要になることがある。親を頼れない人や虐待をうけていた人は相当楽になるし、救いだと思う。みんな早く成人したいんじゃないかな？
- 正直やめた方がいいと思う。18 歳で責任をとれるか？と考えると難しいような気がする。
- 高校卒業して働いている人にとっては良いこと。
- 若い人が自分の意志で行動できる機会になる。ただ、親の世代は「20 歳成人」という意識なので、親の干渉が強くなりそう。18 歳の自己決定が尊重されるか疑問。
- 18 歳成人でより若者向けの政策が出やすくなったら若者である自分にもメリットがある。

まとめ

- ・ 年金や保険、契約を通して「成人」を意識したという青少年が多く、社会保障制度や契約の仕組み等に関する具体的な知識の不足に不安や課題を感じている青少年がいることが分かりました。
- ・ 成年としての権利と責任を得る年齢にあわせた教育機会やボランティア活動など多様な人との関わりから社会を学ぶ機会の充実など 18 歳成人を迎え入れる社会としてのサポートが必要、という意見が多くありました。

青少年 11 人にお話を聞きました。

● 成人したとき、どう思った？
● 成人して困ったことは？
● 18 歳成人について、どう思う？

「成人」して変化したこと

- なんでも自分で決めるようになった。
- 人と接する時に同じ「成人」なんだって意識するようになった。
- 自分の中では 19 歳と 20 歳でなんにも変わってない。責任とかが増えるだけ。
- 「自分のことは自分でやらなきゃ」という気持ちの変化があった。いままで親がやってくれていた家事も、できるだけ自分でやろうと思うようになった。
- 自分がやりたいと思ったことができるようになって、自分を表現できるようになった。親の干渉から解放された。
- 10 代と同じでは評価されないという「焦り」を感じた。「自立」についても考えるようになった。

「成人」して困ったこと・不安なこと

- 親の庇護から抜けたことで保険や貯蓄などお金のことは考えるようになった。
- 社会人としてのマナーが分からない。
- 選挙や年金、契約のことを学ぶ機会がない。家庭環境によって情報格差がある。19 歳までは「知らなくていいよ」だったのに成人したとたん「知っていること」を求められる。もうちょっと移行期間がほしい。
- 年金など公的機関での手続きがわからない。年金や保険など払うお金が増えて、金銭的に厳しい。どこに相談したら良いのか分からない。
- 年金や選挙のことが全然わからない。
- 50 代・60 代の「成人」イメージを押し付けられることがあるが、価値観も違うし認識のズレを感じる。
- 就職したら年金や保険など払うものが増えるが、ちゃんと払えるのか心配
- 就活が不安。自分が働いているイメージがもてない。
- 20 歳になったばかりの頃は「どんな大人になるんだろう？」「どんな仕事するんだろう？」「楽しい仕事ってあるのかな？」と不安だった。社会に対するイメージがネガティブだった。

「18 歳成人社会」に期待すること

- よく分からないうちに大人になった人が困らないで、積極的に社会に参加したいと思っている人が参加できるような社会になって、それが新しい力になればいいなって思います。
- 「大人」の価値が高まって「大人であること」に対して、一人ひとりが自覚を持てる社会になったらいいと思う。
- 投げやりにならないでほしい。こんなことも分からないのか、とか、「ゆとり世代」だからじゃなくて、もうちょっと寄り添ってあげれば態度や意欲も変わってくる。
- 18 歳成人にあわせて「教育」する責任が大人にはある。社会全体が 18 歳成人を受け入れる土台をつくらないといけない。気持ちよく権利行使できるような社会だったらいいと思う。
- 18 歳成人でいろんなことが変わるわけではないと思うけど、18 歳に引き下げたからにはそれなりのサポートをしてほしい。
- 成人年齢を下げたのであれば、しっかりと若い人の声を聞いてほしい。風通しをもっと良くしてほしいなと思いますね。
- 大人だけ多少くらい失敗しても良いよっていう寛大さ、余裕が社会にあると良い。成人で一律に全部の権利と責任が与えられるのではなく段階的に権利が大きくなっていく方法もあるのではないかな。学校教育の充実も必要だと思う。